

基幹災害拠点病院機能の強化-2

大規模災害発生を想定し、綿密な対策、仕組みを構築。

災害発生時の3段階対策

第1段階

災害発生直後の対策

- 災害発生直後は、病院内の患者さんの治療維持が最優先になります。
- 病院機能を維持するために、無停電電源装置を設置し、電力供給を維持するとともに、電源を2系統引き込むなど、ライフラインの多重化を図り、インフラ途絶を抑制します。

第2段階

インフラ途絶期間の対策

- 災害発生数日後は、被災者や救護医療チーム、ボランティアの受け入れなど、施設への収容人数が増加する中での診療となります。
- 熱源機器の複熱源対応・備蓄液体燃料による非常用発電機の設置など、インフラが途絶しても代替・備蓄エネルギーにより、診療機能が持続可能です。なお、非常用発電機の燃料は、72時間の自立運営が可能です。

第3段階

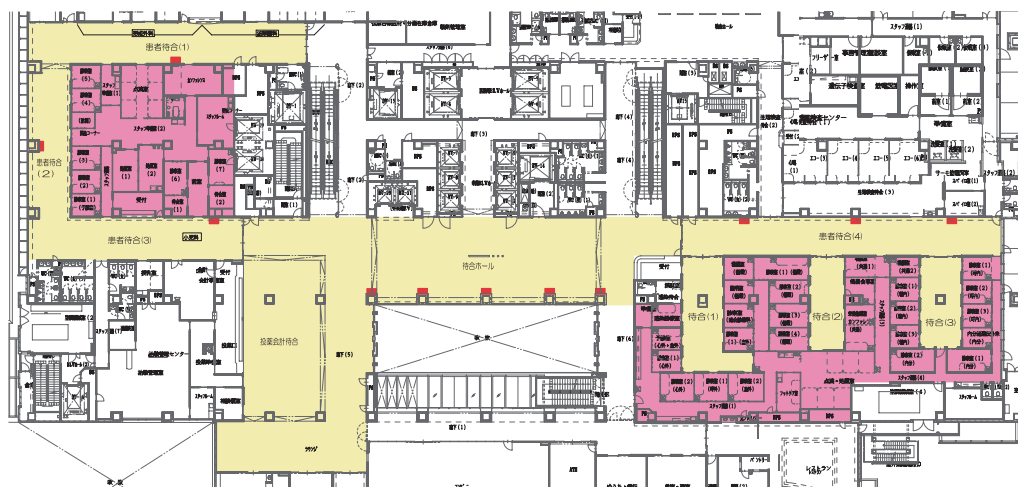
災害復旧長期化によるエネルギー不足への対策

- 電力供給が復活したものの、発電所機能の低下などにより慢性的な電力不足が生じた場合は、生命維持に必要な装置等を優先稼働させるなど、徹底的な省エネとピークカットを行うとともに、非常発電機及び太陽光発電によるサブ電源供給を行うことで診療機能を継続できます。

施設に備える災害対応の仕組み

- 立体駐車場の地下に井戸水をためる水槽を設置しており、浄水装置で飲用水に代用できます。また、電気配線、電話回線、インターネットの無線LANを二重化しています。自家発電装置は都市ガスと油の両方で運転可能です。
- エントランスホールなどの共用部が、トリアージや診察・応急処置のスペースとなります。各診察室には、医療ガス(酸素・吸引)、医療用コンセント、ナースコールを設置しており、外来診察室の入院病床化が図れます。

2F



※1階および3階より上のフロアでも同様の仕組みが備えられています。

■ 災害時における
診察・応急処置スペース

■ 災害時における診察・応急処置スペース
診察室には医療ガス(酸素・吸引)
医療用コンセント、ナースコール

■ 災害時用キー付壁付設備
医療ガス(酸素・吸引)
医療コンセント、ナースコール